

2025年度

ふじた未来入学試験
学習能力適性検査

小論文

注意： 答えは解答用紙に記入すること。

藤田医科大学医学部

次の文章は神経科医スザンヌ・オサリバン著「眠りつづける少女たち」(紀伊國屋書店)の一部である。この文章を読んで以下の設問に答えなさい。

ジャーナリストのイーサン・ウォッターズは著書『クレイジー・ライク・アメリカ——心の病はいかに輸出されたか』〔阿部宏美訳、紀伊國屋書店、2013年〕で、西洋文化によるメンタルヘルス問題の取り扱いかたに疑問を投げかけている。彼によれば、アメリカ人が抗うつ薬やうつの治療としての話し合い療法を発明したのは、苦痛に苛まれている人々をかつて支援していた共同体的な感覚が失われてしまったからだ。彼はその具体例としてトラウマのカウンセリングを取り上げ、2004年のインド洋津波が起こった直後にスリランカを訪れたアメリカの臨床心理士の態度について述べている。インド洋津波が発生してから数か月のうちに、アメリカから個人や団体が、ボランティア活動の一環としてスリランカに渡った。被災者が必要としているとアメリカ人が考える、医療の支援や訓練を地元の人々に提供することが目的だった。だがそのやりかたは、必ずしも成功しなかった。地元の人々に被災者支援の方法を教えようとしたとき、臨床心理士たちは彼らを、「心理」にあまり精通していない、能力の乏しい聞き手として扱ったのだ。臨床心理士たちはPTSD(心的外傷後ストレス障害)の概念をスリランカに持ち込み、ストレスに対する反応を、文化や社会に密接に結びつけたものとしてではなく、脳内で生じる普遍的な現象として説明した。さらには自分たちが提供するカウンセリングはつねに正しいと想定し、また、スリランカの人々に関して自分本位のさまざまな憶測を抱いていた。たとえば、スリランカ人は長期にわたる貧困と戦争のせいでぜいじゃく^①になったと見ていた。アメリカの臨床医たちは、災害に対するスリランカ人の反応——たとえば学校に戻りたがる子どもたちを現実逃避と見なすなど——に困惑した。アメリカで活動しているスリランカ出身の臨床心理士ガイスリ・フェルナンドは、欧米のPTSD研究者やカウンセラーが母国に大挙して押し寄せる様子を見て不安を感じていた。彼女の見かたでは、苦境は人をぜいじゃく^①にするのではなく回復力を高めるのであり、また、スリランカ人と北米人ではストレスの受けとめかたが異なるはずだった。スリランカ人は身体症状を通してストレスを表現することが多く、現在でも西洋医学に認められる心と身体との分離とは無縁だった。そしてトラウマを、内面の状態としてより、社会的な人間関係への影響という位置づけで受けとめていた。彼女は被災者の救援におけるスベリチュアリティ^②の役割を強調しているが、欧米の生理的、心理的アプローチはこの側面を等閑に付していた^④。事実フェルナンドは、戦争がコミュニティに及ぼす影響をかつて研究していたが、その課程でキリスト教徒の子どもたちと比べ、仏教徒やヒンズー教徒の子どもたちがうつになりやすいことを発見していた。それに対してアメリカの医療現場は、文化に対するはいりよ^③をはなはだしく欠いていたのだ。

ここで私が言いたいのは、メンタルヘルスの問題に対処するためのすぐれたシステムを持つ文化と持たない文化があるということではない。たったひとつの正しいシステムなど存在しない。したがって、あるコミュニティに属する人々が別のコミュニティで採用され

るべきシステムを知っていると言ったとしても、それは思い込みにすぎないと言いたいのだ。そのことは個人間にも当てはまる。ひたん^③に対するアプローチの文化的相違について論じるなかで、ローレンス・キルマイヤーはラトビアの文化に関する事例をあげている。ラトビアでは、喪に服している人は「石の下に苦痛を埋めて、歌いながらその石をまたげ」と助言される。また、オーストラリア先住民は、土地に対する深い結びつきを感じている。だから彼らにとっては、土地が健康でなければ自分たちも健康になれない。西洋医学は、ラトビアの文化やオーストラリア先住民の観点に注意を払わない。西洋医学は、私たちに有効だったとしても、どこの誰にとっても適切だと想定すべきではない。

第1問 下線部①～③のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① ぜいじゃく
- ② はいりよ
- ③ ひたん

第2問 下線部④の「等閑に付す」の読みをひらがなで記しなさい。また、その意味を文中の言葉で言い換えなさい(10字以内)。

第3問 アメリカの個人や団体の支援がインド洋津波で被災したスリランカ人の助けにならなかったのは、彼らのどのような態度のためか。文中の言葉を用いて四つ記しなさい。

第4問 親切や好意がそれを受ける人にとってはかえって迷惑となる「有難迷惑」についてあなたの身近で起きた事例を挙げ、その原因及び対処法を考察するとともに、あなた自身がその事例を通じて得た教訓を述べなさい(400字以内)。

空白ページ